

教育理念	「学力がつか・やりたいことを極める」新しい高校	当年度の課題
目標(テーマ)	・基礎学力を再生して(学力回復教育)高校を卒業 ・学ぶ楽しさを体験する科学の授業で、生涯を学び人に ・目覚めよ！自自力。やりたいことにチャレンジ ・徹底的な個人指導と親身なサポート体制	・学習指導要領に基づく、質の高い教育を展開できるよう、レポート及びスクーリングの内容の更なる充実と教職員の指導体制の強化に努める。 ・いじめの防止等に関する措置を実効的に行うために組織委員会を設置すること。 ・学校運営に関わる関係者評価を実施し、より質の高い学校運営をすること。

※評価基準…A:十分達成できている B:達成できている C:概ね達成できている D:不十分である E:出来ていない

分類	評価の観点	評価項目	具体的な評価項目	評価	評価の観点と理由	改善策
学校経営	学校運営	教育目標	多様な生徒の学力・体面など、個々の状況に応じて適切な支援・指導を行っている。	B	・教育課程の編成、実施の考え方について、理解を深めた上で、より効果的な面接授業を実施していく必要がある。 ・基礎学力が不足している生徒への個別対応とレポート理解度を向上させるための体制づくりが課題である。	・面接授業については、科目担当教員を中心として、全職員で、精神的及び学力の不安とする生徒支援ができる体制にしている。 ・レポート指導については、当校以外での支援体制(主要都市でのレポート支援会の開催)を整えている。
		運営方針	自己評価及び保護者など学校関係者による評価を実施していくとともに、学校経営方針を具現化していく。	A		
		学習指導要領の対応状況	教育課程は学習指導要領に沿っており、その編成・実施の考え方について、教職員間で共有ができている。	B		
	教職員連携	組織運営	校務分掌や各委員会、主任体制などが適切に機能するなど、学校運営・責任体制が整備されている。	A	・昨年度確立した組織運営や校務分掌、各主任及び主事体制が適切に機能した。 ・教職員間の相互理解・信頼関係に基づいた教育活動が行われている。	・教員間、事務職員間の連携・情報共有のため、職員会議やスクーリング会議を更に質の高いものにしていく。
		教員・教科間連携状況	教職員間の相互理解がなされ、共有及び信頼関係が構築され、教育活動が行われている。	A		
		教員と事務職員の連携状況	教員と事務職員の情報交換の機会があり、相互理解及び連携がとれている。	B		
		会議の有効性	職員会議や運営会議、スクーリング会議などの共通認識・共通理解のもと、有効かつ効率的に機能している。	A		
	財務関係	財務に関する意識	経営指標と財務状況について理解している。	B	全教職員に対し、学校運営責任者による経営指標・財務状況を説明しているが、更なる理解度を高める必要がある。	学校運営責任者及び財務担当者から、報告できる場面設定を行い、全教職員の財務意識を高め、共有していく。
		財務状況の把握	予算・決算の収支状況に関して理解している。	B		
	危機管理	役割分担	事故・事件・災害などに対する連携及び役割分担が明確になっている。	A	・関係各所(警察・消防・学校医など)の連携はとれており、事件・事故・災害などに対する指示体制も整っている。 ・万が一の災害等に備え、教職員だけでなく生徒も参加した避難訓練を計画し実践していく必要がある。 ・個人情報管理については、プライバシーの確保を維持しており、研修体制も整えている。	・危機管理意識を高めるために半期に1度、全体会議を実施する。 ・避難訓練を学校安全計画に位置づけ、生徒が体験的に理解できるように計画的に実施し、万が一の災害等に備える。
		安全管理	安全な学習環境づくり(校舎内外の安全点検管理及び諸活動)を推進する。	B		
		危機管理対応状況	危機管理マニュアルに基づき、町役場、警察、消防と連携するなど、安全対策がとれている。	A		
個人情報管理		生徒情報管理が適切に行われている。	A			
渉外	生徒募集	学校説明会の実施や学校案内パンフレットなど、効果的な広報に工夫・充実させる。	B	学校説明会を定期的且つ広範囲で実施し募集活動を行った。また、地元の公立学校を退職された元校長を顧問に迎え、県内及び近県への学校訪問を実施し、認知度拡大を図った。	ニーズのある地域での学校説明会等を更に強化していくとともに、関東圏、茨城県内の生徒獲得のために学校の特色の周知を図っていく。	
	各教育機関との連携	市町村教育機関への訪問や県私学連絡協議会加盟と連携した広報活動していく。	A			
教育内容・支援	面接指導・添削指導等	スクーリング参加状況	年間スクーリング日程計画に基づいた参加促進を行う。	B	・メディア学習(1メディア→2メディア)が増えたが、昨年同等の提出状況であった。しかし、メディアの内容及びレポートの内容については、さらに学習成果(興味・意欲・関心)が上がるよう修正していくよう努める。 ・スクーリング日数が5日から3日になったことで、生徒自身の身体的・精神的な負担が減り、問題なく全日程が終了した。しかし、生徒評価による評価結果に基づき、実施日程や面接時間割等を検討し、更なる顧客満足度を高めよう努める。	メディアの内容をより取組みやすいものに変えていく。また、スクーリング日程については、生徒の意見、体験学習施設の状況により、見直しを行う。
		スクーリング内容(面接授業)	各科目担当者が創意工夫を行い、生徒の興味・関心・意欲が高められる授業を展開していく。	A		
		レポート内容・添削	メディア学習増(スクーリング日数減)に伴い、全生徒の動画視聴記録やレポート提出状況を把握し、予定どおりの提出に向けた支援を行う。	B		
	情報発信	ネット回線の有効活用	本校独自でネット開設している「マイページ(通称)」にて、タイムリーな情報提供を行っている。	A	学校独自のネット開設(通称:マイページ)により、学校イベントなどの情報提供を行っている。また、定期的な発行物(通称:ルネ高通信)を自宅に発送し、生徒だけでなく、保護者にも情報提供を行っている。	学校の事務的な情報提供だけでなく、ブログ等のSNSを活用し学校の雰囲気をつかむことができるツールを活用していく。
		個人に対する効果的な情報提供	当校独自でネット開設している「マイページ(通称)」にて、生徒及び保護者が学習進捗の確認や各分野(進路など)の情報が閲覧できる。	B		
	情報教育	情報能力知識	各種活用能力の知識を向上させる。	A	情報の教科を中心に常に進化している「ネット社会の実態」について重点をおき、タブレット(iPad)を使用しながら取り組んでいる。また、インターネットにおける若年者のトラブル/危険性についても理解を深める授業を行っている。	情報ツールを活用したコミュニケーション方法を通して、より活用能力を高めることができるよう努めている。また、継続してインターネットによるトラブル等について理解を促すよう努めている。
情報モラル指導		情報発信・公開に伴う責任など情報モラルの教育に取組む。	A			
生徒・進路・保健指導	生徒指導	指導方針の一貫性	指導方針に従い、生徒及び保護者の満足度(進級卒業・進路決定など)を高める。	B	生徒指導は、生徒の在宅時やスクーリング参加時も含め、十分に対応できている。家庭との連携については、担任に依存しているところがあり、組織的に進んでいくことが課題である。	生徒・保護者との連絡・連携が効果よく行えるよう整備が必要である。特に生徒指導においては、外部機関との連携を強化し、より質の高い生徒対応ができるよう努める。
		生活指導について	学校組織に基づき、生徒が安全に諸活動ができるよう共通認識にて運営していく。	A		
		家庭との連携状況	計画的かつタイムリーな連携をとり、充実した学校生活が送れるよう支援していく。	B		
	進路指導	いじめ等の問題行動の未然防止	すべての生徒が安心した学校生活を送れるよう、基本方針に基づき、指導体制を整備していく。	A	希望進路実現(進学・就職)に向け、計画的に実施している。しかし、試験対策指導(筆記・面接など)の強化が必要である。	進路について、担任一人ひとりが最新情報を共有し、適切な進路指導を行える体制を整える。
		キャリア教育について	生徒一人ひとりの状況に即し、主体的な進路選択に結びつく適切な指導をしていく。	B		
保健指導	健康の保持増進について	生徒が心と体の健康を自ら管理できる知識と実践力を育成する。	A	スクーリングの特別活動(健康)にて、生徒の健康管理、生活習慣、健康増進に向けた取り組みを実施している。	保護者に対しても情報提供を呼びかけ、状況の把握、対応について対策を行なっていく。	
その他	学校関係者評価	計画的、継続的に実施し、教育の質の向上、学校運営の改善強化に向けて取組み、開かれた学校づくりを進めていく。	A	年に1度、学校関係者評価を実施し、意見を集約して、年度内に修正、次年度に向けた改善準備を行うことができた。	学校関係者評価の運営方法を改善し、更なる質の高い運営を行なっていく。	
	教職員研修	教職員が計画的に研修(生徒指導、保健指導等)に参加できる習慣や体制が整備されている。	B	学校内研修(生徒指導面)や県主催の研修に参加し、参加者による伝達会にて共有を図った。	校内研修の実施回数を増やし、教職員のスキルアップを図る。	
	他校及び関係機関との連携	姉妹校、県私学連絡協議会加盟にて、通信制高校としての在り方などの情報交換を行い、学校全体としての向上を高める。	B	県私学連絡協議会での情報交換や事務局による研修に参加し、教職員のスキル向上を図った。	グループ全体で、運営方法全般に関する事例を共有できる仕組みづくりを整えていく。	

校長 教頭 事務長